

2026年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2026年7月30日(木) 16:00～17:15

全体

Q: 上期計画の上方修正の背景には、今年度下期や来年度からの前倒しが含まれるか。

A:

- ・顕著な影響がある事業はない。プラント案件は、顧客事情や現地工事の進捗により当初納期から四半期単位で入り繰りする案件もあるが、損益影響が生じないようプロジェクト管理を徹底していく。

Q: 下期計画を据え置いた要因は。ダウンサイド、アップサイドリスクの有無は。

A:

- ・プラント・システム案件の今後の受注動向の見極めや、中東情勢による部材高騰、入手難の状況を精査する必要がある。一方、事業環境の強さは継続するとみており、アップサイドを期待している。

エネルギー

Q: 発電プラントの業績が堅調な背景は。今後もこの基調を維持できるのか。

A:

- ・好採算な海外の地熱案件が業績に貢献しており、今後も提案活動を継続する。国内では電力需要の拡大に伴い脱炭素電源オークションなどを通して火力案件でも動きがあるが、とりわけ水力の需要が堅調であり、2030年～2035年を納期とする長期スパンの案件の動きが活発である。原子力関連でもお客様のニーズを汲み取った提案が、受注に結び付いている。

Q: 施設・電源システムの受注が対前年で伸長しているが、国内外比率や顧客構成は。

A:

- ・対前年約600億円増のうち、3分の2弱が国内、3分の1強が海外。大半がデータセンター向けであり、国内は長年お客様と取り組んだ案件の具体化や、海外のお客様が日本にデータセンターを開設する案件を受注できている。他にも半導体工場向け高圧受変電設備を計画比で前倒し受注した案件もあり、大幅に受注が伸長している。

Q: 競争の激しいデータセンター業界において、北米やアジアで新たにシェアを獲得できている背景は。

A:

- ・お客様ニーズへの真摯な対応が評価をいただいている。さらにコスト競争力も維持できている。
- ・お客様の需要に対応するため、Fuji SMBE社ではマレーシア工場だけではなくオーストラリア工場も生産能力を増強しており、オーストラリアでも案件が増加している。東南アジアではとりわけタイが伸長しており、タイの富士電機マニュファクチャリング(タイランド)社で配電盤を増産している。

Q: データセンター関連売上高を2026年度1,000億円から2030年度に倍増させるとの報道があったが情報の真偽は。

A:

- ・2026年度のデータセンター向け売上高は、報道の通り約1,000億円を見込んでいる。今後は海外向け売上高が伸長する。
- ・今後の受注・売上高は更に上振れる可能性があり、引き続きお客様の動向を見ながら計画を精査し、海外の旺盛な需要に対応する生産体制を構築する。

Q: 北米のデータセンター案件の進捗は。

A:

- ・7月にUL認証取得を完了し、物量としては少ないものの受注も獲得した。北米のお客様からはアジアやインド向けの案件への対応を要請されており、海外需要は伸びるものの、北米は2029年～2030年頃に更なる拡大を見込んでいる。

Q: データセンターのDC800V化に関する製品の引き合いは。

A:

- ・DC800V化のニーズはほとんどない。ただし、お客様1社から将来に向けた対応を求められており、急成長を見込むAIデータセンターのニーズへの対応を進めている。

Q: 開発を進める小型UPSは従来製品に比べて収益性は高まるのか。

A:

- ・小型化に加え、低負荷時の省エネ性能を高めるなど付加価値の高いUPSを開発しており、収益性も高めていきたいと考えている。

Q: 施設・電源システムで2Q以降に売上高が急拡大する地域と生産能力拡大の進捗は。

A:

- ・第2四半期売上高は1Qに比べて2倍弱の増。タイの拠点を含め海外で先行して増産体制が整うこともあり、海外売上高が伸長する。国内の神戸工場は4Qから業績に貢献する見通し。

インダストリー

Q: 1Q売上高に占める半導体関連向けの比率や構成は。また、地域間の強弱はあるか。

A:

- ・半導体関連を全て含めて、コンポーネント事業の約2割。器具（特にブレーカ）、計測機器、小容量電源等を国内外の製造装置や試験装置向けに多く納入した。試験装置向けは、過去2年にスペックインしたコントローラ、小容量電源等のカスタマイズ品が今年度から売上貢献し始めている。
- ・地域別には中国において、FAコンポーネントは市況低迷により売上高比率の高い紡績やエレベータ向けが低調。一方、器具は半導体関連向けを中心に順調に伸長。

Q: サブセグメント毎の2Q営業利益の見通しは。

A:

- ・インダストリー全体では対前年増益だが、1Qに比べて対前年増益率は若干弱含み。サブセグメント別には、FAコンポーネント、器具は、受注好調を背景に対前年増益基調。一方、オートメーションは、1Qは前年度の大口案件費用増の反動や進行基準案件の前倒しがあった影響で好転したが、2Qは対前年減益。ITソリューションは、前年度セカンドGIGAの反動減により2Qから下降傾向となる。

半導体

Q: 1Q決算の社内計画比および下期の見通しは。

A:

- ・産業分野は、サーボ、NC／工作機械、インバータなどのFA向けモータードライブ、および再エネ向けESS(蓄電システム)の需要が増加。電装分野は計画並み。
- ・営業利益は、産業分野の売上増に加え、良品率向上など原価低減の取り組み推進により増益。
- ・下期対上期で増収増益を見込む当初計画に対して、電装分野は計画並み、産業分野は若干上振れる見通し。

Q: 今後のデータセンター向けの事業機会は。

A:

- ・当社は大容量帯の製品が主力であり、UPS、ESS、空調機器向けなどを中心に取り組んできた。今後はSiCへのシフトにより製品が変わる。また、サーバーラック向け少容量帯の製品の需要が増える見込んでおり、対応する製品系列を準備して取り組む。

以 上